

北企財第 206 号
平成 20 年 10 月 15 日

国土交通省道路局長 様

北斗市長 海老澤 順 三



今後の道路行政についての意見・提案の提出について行政庁長官の意見・提案の提出について
9 月 19 日付け国道企第 37 号にて依頼のありました標記の件について、別添のとおり
提出します。

(総務部企画財政課企画・財政グループ)

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道 北斗市

北海道新幹線の新函館駅（仮称）までの開業が平成27年度に予定されており、道南地域の広域的な重要課題として新幹線新駅を交通拠点とした道路ネットワーク構築が懸案となっている。

こうした中、北斗市においても、新駅周辺地区の市街地形成を図るため、土地区画整理事業とともに必要な道路整備を計画しているほか、既成市街地の都市機能の維持、向上を図る道路整備も大きな懸案となっており、今後においても道路整備事業に多額な事業費が見込まれ、厳しい財政状況にあるが、地域の活性化に効果の大きい道路整備は積極的に取り組んでいかなければならないと考えていることから、地方道路整備の着実な推進を望むものである。

なお、北斗市の平成20年度歳出予算における道路関係経費は7.5億円で、このうち改良・新設等の道路整備費は4.3億円となっている。また、このほか道路整備に係る公債費は4.4億円にのぼり、道路関係経費の歳出総額は11億円となり、これら総額の一般財源は7.0億円となっている。

また、これに対して地方の道路特定財源となる自動車重量譲与税、地方道路譲与税、自動車取得税交付金は合計3.3億円が見込まれ、地方交付税による財政措置もあるものの、道路関係経費の財源は充分と言えない状況にある。

○国、道が計画、実施する道路整備の着実な推進

○道路整備財源の確保

- ・地方道路整備臨時交付金、まちづくり交付金制度の継続と予算の確保
- ・道路整備に係る地方財政措置の充実

○道路構造令の弾力運用

②－１ 地域の現状と抱える課題

北海道 北斗市

○現状

○北海道新幹線開業に向けた取り組み

- ・北海道新幹線の新函館駅(仮称)が北斗市に設置され、平成27年度開業が予定されている。新駅の置かれる地区については、道路等の都市インフラが未整備であるため、現在、市施行の土地区画整理事業で市街地整備を推進することとしている。
- ・北海道新幹線の及ぼす効果は大きいものがあり、道路ネットワークの整備促進とともに産業経済などの広域的な取り組みも重要として、国、道、市町間の連携の強化に努めている。

○市民生活に身近な都市環境・生活基盤整備の取り組み

- ・広域道路ネットワークの利便をより享受できるよう、これら整備計画と整合した市道整備とともに、既存市街地の都市機能向上を図る都市計画道路の整備も積極的に進めている。
- ・市民の身近な生活環境の向上を図るための私道整備をはじめ、安全な歩行空間の確保のため歩道整備等も積極的に進めている。また、既存市道の適切な維持管理とともに老朽化した市道の二次改築にも努めている。
- ・その他、路線バスの充実対策をはじめ、緑化やごみ減量・リサイクルの推進など環境に負荷をかけない生活環境整備を進めている。

○産業振興の取り組み

- ・農業は米と施設野菜による複合経営を、また、漁業は資源管理型の「育てる漁業」を促進し、農家・漁家の所得向上や担い手の確保に努めている。また、地場産品の地域内利活用など地産地消の取り組みも進めている。
- ・商工業については、市独自の新規開業支援をはじめ、企業立地促進法に基づく基本計画に基づき、函館圏一体となった企業立地の促進等を行っている。
- ・地域の産業振興上、円滑な物流を担う道路網の確立は不可欠として産業界からも整備促進の期待は大きい。

○課題

○新幹線を生かしたまちづくり

新幹線を生かしたまちづくりについては、新幹線の開業に伴う経済効果が広く道南地域に及ぶよう、行政と民間が連携しながら、新駅を拠点として広域的な視点に立って進める必要がある。

このため、新幹線による本州との活発な観光・ビジネス交流を誘引する施策を図るとともに、新駅を核とした地域間の交流人口の拡大を促す広域交通ネットワークの構築や新駅周辺に地場産業を含む経済活動の活気あふれる新たな都市拠点の基盤づくりなど、北海道の玄関口にふさわしいまちづくりが求められている。

○人と自然が調和した環境の持続と生活環境づくり

市民の生活にうるおいとやすらぎをもたらす、豊かな自然は、地球環境が問題となっている今日、その重要性が一層強まっている。この豊かな環境を次の世代に引き継ぐためには、緑や水、大気などの自然がもっている再生・自浄能力の有限性を認識し、自然との適切なかかわりを保ちながら、植樹、省資源・リサイクルの促進、河川浄化など、環境改善につながる多様な取り組みを推進する必要がある。

また、広域幹線道路や生活道路など基礎的な都市基盤の整備とともに既存ストックの延命・活用とともに、市民の価値観の多様化により、市民生活に直接かかわりのある公共交通の充実や交通安全対策など、身近な日常生活への対応が必要。

○活力あふれる産業が発展するまちづくり

現在の経済情勢は全国的には回復しているとはいえ、北海道においては依然として厳しく、景気の動向は不透明な状況が続いている。活力ある産業構造への転換を図るためには、北斗市の持つ資源や特性を活かして、工業、農業、林業、漁業、商業、サービス業、建設業、観光関連産業などの産業間や産学官連携など、これまで以上の垣根を越えた新しい産業分野への進出、さらに、地産地消の推進が求められている。

また、地域経済発展のため、北海道新幹線の開業に伴う波及効果を活かす検討が必要。

②－２ 地域の目指すべき将来像

北海道 北斗市

１ 新幹線が拓く新しいまちづくり

北海道新幹線については、新青森・新函館（仮称）間の早期開業と札幌までの一日も早い着工を目指し、積極的な取り組みを進めるとともに、新幹線開業を地域活性化のまたとない機会として活かし、その効果を最大限に発揮できるまちづくりを進める。

新駅周辺地区を拠点として活動する人々の賑わいにより生活の豊かさを実感できるまち、その活気を北海道全体に波及させるまちづくり「活気が広がる南北海道クロスエリア北斗」を目指す。

２ 個性とうるおいのある都市環境づくり

個性とうるおいのある都市環境の実現に向け、土地利用や都市計画を推進するには、市街地形成の動向を的確に把握し、経済の動向も見据えながら長期的な視野での検討が必要。このため、快適で利便性の高い都市基盤や都市機能の強化、個性ある地域特性に応じた魅力ある市街地や交通体系の整備を進める。

なお、北海道新幹線の整備に伴いＪＲ北海道から経営分離される並行在来線問題については、関係機関などとも協議を重ねながら慎重に検討。特色ある自然空間づくりや市街地の緑地保全を進めるほか、将来を展望した総合的な情報化社会への対応を進める。

３ 緑にかこまれた安全で快適な生活環境づくり

自然環境と調和した環境にやさしく、安心して快適なまちづくりを進めるためには、地域の資源や施設を有効に共有し、市民と協働による良好な住環境の整備を図っていくことが重要。このため、合併による地域の交流と連携を高める道路の整備、高齢者および低所得者などに対応した公営住宅の建設、さらに、民間活力を利用した借上型市営住宅の整備促進、上下水道や合併浄化槽の整備を進める。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北海道 北斗市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
○地域活力の向上	・北海道縦貫自動車道 ・高規格幹線道路函館・江差自動車道 ・函館新外環状道路 ・都市計画道路 新駅駅前通、新函館駅(仮称)北側ルート道道	道央圏や今後開業する北海道新幹線と渡島・檜山両支庁を結ぶ高速交通体系の形成とともに、函館圏で深刻化する交通混雑の緩和しつつ、南北北海道の産業経済の活性化と圏域の一体的な振興に寄与するものと考えられる。	
○都市交通の快適性 利便性の向上	・一般国道228号（上磯拡幅） ・都市計画道路 新駅環状通、新駅仲通及び新駅周辺整備地区内の区画道路等	函館圏における母都市・函館市と北斗市とを結ぶ幹線的路線である国道228号をはじめ、新幹線新駅の都市機能の向上を図り、函館圏都市全体の快適性・利便性の向上が図られるものと考えられる。	
○総合的な交通安全 対策及び危機管理 の強化	・一般国道227号 ・都市計画道路 大野市街地通（道道、市道）	自動車利用者、歩行者がともに安全に移動できるよう、道路線形の改良をはじめ、有事の際の避難ルートともある市街地における道路の歩道新設などを行い、交通安全対策や危機管理の強化が図られるものと考えられる。	
○良好な生活空間・ 自然環境の形成	・市道の改良整備（二次改築含む）、適切な維持管理の推進	生活道路の計画的な改良整備や適切な維持管理の推進により、安全性・機能性の高い身近な生活空間の形成が図られる。	